

目指す学校像

「楽しく実りのある学校」



スクールスローガン

～期待の登校 満足の下校～

子ども達が、わくわく胸を弾ませ笑顔で登校してくる、そして「しっかり勉強した。」「仲間といっぱい遊んだ。」と一人一人が成就感を味わいスキンシップしながら家路を辿る、登下校にそんな子ども達の姿があふれる『楽しく実りのある学校』を創りたいと考えています。

昨年度は、子ども達の「楽しさ」の追求だけにとどまらず、学びが連続し、交差し、絡まり合い、『活用できる知=実り』となり、それが『生きる力』として蓄えられる『楽しく実りのある学校』を創るであろうと考え教育改革を進め、言語活動の充実を目指し授業に取り組んでまいりました。昨年度の学校評価においては、「子ども達が自分の思いや考えを文章で表現すること」については成果を得たとの評価をいただきました。

そこで、本年も確かな実りを求め、学校を取り巻く環境や学校に求められている価値や使命、役割を再認識し、クオリティーの高い多様な学びを提供するために、組織化やカリキュラムの改革をいっそう進めています。

楽しく実りのある学校創りを進めるにあたっては、まず教職員自身が楽しい職場だと実感できる学校でなければならぬと考えています。教職員自身が成就感を得、教育にたずさわる喜びを実感し、その喜びが共有できる『チーム桃山』であること、言い換えれば、個が能動的に学校運営に参画することで輝き、それを生かすべく、共通実践を積み重ねていくことに喜びを感じるチームとして行動することが楽しく実りある学校を創っていく原動力になると考えています。

活力ある取組で信頼を深め、保護者・地域の皆様や、また他校種の力等、全ての教育力を学校に集め、子どもたちに還したいと思っています。

何卒、ご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年度 教育の重点 「桃山小学校アクションプラン」

学校の存在の意義を考えたとき、まず学校は学ぶ場であると考えます。学びとは、いわゆる狭義における知的な学びだけにとどまらず、他者と関わる力等、子ども達が自律・自立し、明日を自らの力で切り拓いていくための力となる全ての学びを指すと捉え、本年の教育目標を設定しました。

教育目標の具現化を目指し、以下に「やさしく・かしこく・たくましく」とバランスの取れた子どもたちの育ちをさらに深化すべく、個別のプランを作成し教育活動を進めていきます。
どうぞ理解ください。



(朝練習でランニングをする子どもたち)

やさしく：豊かな心の育成 ⇒ いきいきプラン

道徳教育の推進

□目的

・人間としての生き方を探究する力や道徳的実践力を育てる。

□具体的な取組

- ・長期宿泊学習をはじめ、豊かな体験活動等の意図的な教育活動への取り込み
- ・クラスルームソーシャルスキルを取りこんだ道徳の桃山モデルの作成と実践
- ・年間指導計画に基づく計画的な指導の推進
- ・道徳推進教師を中心とした確かな実践

人権教育の深化

□目的

・子どもの自尊感情を高め、自分も人も大切に捉え、共に生きていこうとする態度を育てる。

□具体的な取組

- ・クラスルームソーシャルスキル（CSS）の共通実践
- ・6年間を見通した全体計画を作成：系統的な指導の充実
- ・人権教育年間指導計画の作成と実施

全教育活動を通して、人権認識・人権感覚を培う。

生徒指導の徹底

□目的

・規範意識の醸成と、諸問題の未然防止・早期解決に努め、学校を子ども達にとって安全な居場所として確立させる。

□具体的な取組

- ・「あいさつ」・「そうじ」を特化した組織的徹底指導
- ・マナー・モラルの定着に向けた教職員の率先垂範
- ・学校のきまりの指導の徹底と、同一基盤に立った共通実践
- ・問題行動の未然防止・早期発見と早期対応の徹底、みんなの問題であるという認識
- ・いじめ・不登校問題の未然防止・早期発見と早期対応の徹底

読書指導の充実

□目的

・読書を通して、豊かな心情を育むとともに、活字文化に親しむことを通し、思考を言語で表現する力を育む。

□具体的な取組

- ・週時程の中に読書タイムの帯時間を毎朝設定する。
- ・担任も共に読書する姿を示すことによる確かな共通実践
- ・充実の可視化：目指せ100冊運動の推進（家読の奨励）
- ・図書館運営支援員、図書館ボランティア、お話玉手箱の活動との連携

かしこく：学力向上 ⇒ ぐんぐんプラン

指導体制の再構築

□目的

- ・子どもの学びへの意欲を高め、個々の力を最大限に伸ばしていくよう指導形態・指導方法の工夫・改善を図る。

□具体的な取組

- ・人員配置の工夫による学年チーム体制の強化
- 4年生から6年生に、加配教員を学年担任として配置し、担当学年の統括的な役割を担う。
- 育成学級担任も、学年担任としての一役を担う。
- 担任だけでなく、複数の眼で児童を多面的・多角的に捉えることにより、児童理解を深め、よさや可能性のさらなる伸長を目指す。
- 担任は、学年担任として学年を育てるという認識を持ち指導にあたる。
- 学級間格差の解消を図る。
- ・TT指導・少人数指導・習熟の程度に応じた指導等、児童の実態や学習内容に応じて、最適な協力指導体制を敷く。
- 指導形態を工夫することで、より学習効果のあがる教科や単元について洗い出し、積極的に取り入れる。
- 教員の専門性を生かした指導の推進
- 音楽科、理科、家庭科のTT指導。

週時程の改善

□目的

校時の取り方を工夫し、週時程の中に朝と昼の帯時間と1時間の課外学習の時間を確保することで、一人一人の確かな学びの積み重ねと授業時数の確保を図る。

□具体的な取組

- ・帯時間の設定：朝の読書タイム 読み声タイム
　　昼のステップタイム
- ・課外学習の時間の設定：この時間は、一人一人の課題に沿ったきめ細かい指導にあたる時間とする。また、欠時の回復にも充て、授業時数の確保を徹底する。

授業改善

□目的

6年間の学びの継続と、一人一人に届く指導の充実を図る。

□具体的な取組

- ・児童が自分の考えを持ち、共に学び合う授業を構築する。
- ・言語活動の充実：「言葉で」受け取る・考える・伝える。
- ・学習の構えの定着：学習規律の徹底、桃山モデル・ノート指導の共通実践

家庭学習との連動

□目的

授業と家庭学習の相乗効果で学力と自ら学ぶ習慣を育成する。

□具体的な取組

- ・宿題や家庭学習の意義を保護者に周知徹底し連携を図る。
- 学びは学校と家庭の両輪で育むものであり、両者が共に子どもの頑張りを認め、励ます。
- 学びとは、本来主体的なものであり、一人で学ぶという習慣を身につけさせる。
- ・質・量等を統一化。
- 限りある授業時間内での学びを、次の授業につながるよう自らのペースで学び直す課題
- 子どもが必要性を感じる課題
- 日々の授業と家庭学習を継続的に関連付けた課題（学びのサイクル化）
- 確実な点検・指導

たくましく：健やかな体 ⇒ のびのびプラン

「継続は力」の取組の継続

□目的

- ・運動やスポーツの実践の充実を図り、運動することの楽しさや成就感を味わわせる。
- ・続けることで、体力増強を図ると共に、粘り強い心を育てる。

□具体的な取組

- ・朝練習の継続（5・6年生）
- ・部活動の充実：全教職員が指導を分担
- ・各種協議会への積極的な参加

食育の推進

□目的

・給食を生きた教材として活用し、食への感謝の気持ちの育成や偏食の克服等、望ましい食習慣の育成を進める。

□具体的な取組

- ・給食委員会の活性化：啓発活動・広報活動の充実
- ・給食指導の充実：雰囲気作り 食事のマナーの指導等
- ・外部講師との連携の下、食文化に対する素養を培う。

健康教育の推進

□目的

・心身の健やかな成長や健康の保持増進を図る。

□具体的な取組

- ・保健指導の充実
- ・早寝・早起き・朝ごはんの取組の徹底
- ・長期休業明けの生活点検の実施
- ・う歯治療率100%の達成
- ・各種健康教室の実施（薬物防止・歯磨き・歯肉炎等）

放課後の校庭開放の拡充

□目的

- ・自由裁量の活動の場を保障し、学級・学年の枠を超えた児童同士の交流を深めることで、他者と関わる力を育成する。
- ・遊びを開拓する力を育成する。

□具体的な取組

- ・集団下校は1・2年生までとする。
- ・放課後は、自由遊びを優先。運動場を使用する部活動の運動場全面使用は原則として下校時刻後の1時間とする。
- ・下校後の安全パトロール体制の整備